

MICROSOFT SQL SERVER
リンクサーバとビジネスインテリジェ
ンススイートへのデータアクセス

目次

Microsoft リンクサーバー (分散クエリ)	3
Microsoft ビジネスインテリジェンススイート	5
SQL Server アナリティクスサービス (SSAS)	5
SQL Server インテグレーションサービス(SSIS)	6
推奨 Progress DataDirect 製品	7
SQL Server レポートینگサービス(SSRS)	8
SQL Server 2005 エディションの差異	9
SQL Server 2008 エディションの差異	10

このドキュメントは、SQL Server 2005 または 2008 を最大限に活用するデータ接続のガイドラインを提供するもので、Microsoft SQL Server Business Intelligence (BI) ソリューションにて、Oracle、DB2、Sybase の様な、他のデータソースを活用するためのものです。

以下より、各々の SQL Server BI ソリューション、データ接続に関連する制限事項、そして個々の Progress DataDirect 製品の活用がもたらす、最高の効果を説明します。

- ・ Microsoft リンクサーバー
- ・ Microsoft ビジネスインテリジェンススイート

SQL Server Analysis Services(SSAS)

SQL Server Integration Services(SSIS)

SQL Server Reporting Services(SSRS)

- ・ SQL Server 2005 エディションの差異
- ・ SQL Server 2008 エディションの差異
- ・ DataDirect がサポートするデータソースとプラットフォーム
- ・ DataDirect データ接続製品

Microsoft リンクサーバー (分散クエリ)

リンクサーバーで、Oracle、Sybase、およびその他のデータソースなどの非 SQL Server データの“SQL Server View”を作成することができます。
リンクサーバー接続を通じたデータソースへのアクセスは、次のようなステートメントを発行する必要があります。

```
SELECT p.Name, sod.SalesOrderID  
  
FROM SEATTLESales.AdventureWorks. Production.  
Product p  
  
INNER JOIN SEATTLESales.  
AdventureWorks.Sales.SalesOrderDetail sod ON  
p.ProductID = sod.ProductID ORDER BY p.Name ;
```

上記のクエリは、“SEATTLESales.”と命名されたリンクサーバー上の AdventureWorks データベース内の“Production. Product”と“Sales. SalesOrderDetails”とテーブルを参照しています。

データアクセスオプション

リンクサーバーを通してのデータアクセスは OLE DB をベースにしており、データベースインスタレーションのアーキテクチャーと結合されています。
(つまり、32 ビットインスタレーションは 32 ビット OLE DB を必要とし、64 ビットインスタレーションには 64 ビット OLE DB が必要です。)
ご利用の SQL Server 2005 でも SQL Server 2008 でも同様です。

推奨 Progress DataDirect 製品

1. Progress DataDirect Connect for ODBC または Connect64 for ODBC for MSDASQL (OLE DB-ODBC ブリッジ)

リンクサーバーの全機能をサポート。

注：ブリッジとドライバーアーキテクチャーは、SQL サーバーデータベースインスタレーションと一致しなければなりません (全 32 ビットまたは全 64 ビット) Windows 2008 はデフォルトで MSDASQL を搭載しており、Windows 2003 の場合 Microsoft 用のサードパーティーアドオンを別途ダウンロードしなくてはならない点に注意が必要です。

2. Progress DataDirect SequeLink

32 ビットの場合は、ADO 用に SequeLink クライアントを使用し、64 ビット用には、MSDASQL (OLE DB-ODBC ブリッジ) を使用して ODBC 用の SequeLink クライアントを使用します。

リンクサーバーの全機能をサポートします。

注：ブリッジと SequeLink ODBC クライアントアーキテクチャは、データベースインスタレーション(32 ビットまたは 64 ビット)と一致していなければなりません。

3. Progress DataDirect OpenAccess SDK

32 ビットの場合は、ADO 用に OpenAccess SDK クライアントを使用し、64 ビットの場合、ODBC 用の OpenAccess SDK クライアントを MSDASQL (OLE DB-to-ODBC ブリッジ) と共に、使用します。

リンクサーバーの全機能をサポートします。

Microsoft ビジネス インテリジェンススイート

Microsoft Business Intelligence Suite は、以下のマイクロソフトテクノロジーを含むクエリ、レポーティング、分析ソリューションのコレクションです。

SQL Server Analysis Services (SSAS)

SQL Server Integration Services (SSIS)

SQL Server Reporting Services (SSRS)

以下のセクションでは、これらのコンポーネントについて、詳しく説明します。

詳細は、マイクロソフトの Microsoft Business Intelligence Web サイトを参照してください。

SQL Server 分析サービス (SSAS)

これは、マイクロソフトのオンライン分析処理 (OLAP) と BI アプリケーションのためのデータマイニングツールです。

SSAS へのデータ・アクセスは、SSAS ベースの OLAP キューブを非 SQL Server データベースに接続することから成ります。

詳細は、MSDN の SQL Server Analysis Services and Accessing External Data Sources with Microsoft SQL Server Analysis Services 2005 をご覧ください。

データアクセスオプション

接続性は、ADO.NET 2.0 ベースおよび OLE DB ベースで、OLE DB の場合、アーキテクチャはデータベースのインストールに縛られます (32 ビットインストールでは 32 ビット OLE DB、64 ビットインストールでは 64 ビット OLE DB が必要)。

これは、SQL Server 2005 と 2008 の両方に適用されます。

推奨 Progress DataDirect 製品

1. DataDirect Connect for ADO.NET

SSAS 全機能をサポートします。

2. DataDirect SequeLink

Microsoft ODBC .NET データプロバイダで、SequeLink client for ODBCを利用します。

3. DataDirect Open Access SDK

Microsoft ODBC .NET データプロバイダで OpenAccess SDK client for ODBCを利用します。SSAS 全機能をサポートします。

SQL Server インテグレーション サービス (SSIS)

SSIS は、データウェアハウス用の抽出、変換およびアプリケーション(ETL)をロードするマイクロソフトのソリューションです。

詳細については、MSDN の SSIS Connectivity Wiki、SQL Server Integration Services および Connectivity and SQL Server 2005 Integration Services(Bob Beauchemin 著)を参照してください。

データアクセスオプション

完全な SSIS 機能 (SQL Server 以外のソースからデータを取得し、非 SQL Server の宛先にプッシュする) には、OLE DB ベースまたは ADO.NET 2.0 ベースのデータ接続が必要で、SSIS 2005 または SSIS 2008 が使用されているかどうかで異なります。

SSIS は多くの状況で標準 OLE DB 動作を使用しないため、「既成の」OLE DB プロバイダは、改変無しでは動作しない可能性があります。

- パッケージは 32 ビットまたは 64 ビットモードで実行可能ですが、実行時に使用される OLE DB プロバイダのアーキテクチャは、選択したモードと一致する必要があります。32 ビットモードでは 32 ビット OLE DB プロバイダが必要で、64 ビットモードは 64 ビット OLE DB プロバイダが必要です。
- 64 ビットモードで実行する場合、実行パッケージ開発のために使用する 32 ビット OLE DB プロバイダには、同等の 64 ビット OLE DB プロバイダが必要です。(つまり、同じプロバイダの 32 ビット版と 64 ビット版)

- MSDASQL (OLE DB から ODBC へのブリッジ) は、Microsoft による制限のため、SSIS で使用できない可能性があります。
- SSIS 2005 では、64 ビット環境で完全な機能を使用するためには、32 ビットと 64 ビットの OLE DB プロバイダの一致するセットが必要です。
SSIS 2008 では、ADO.NET 2.0 準拠のデータプロバイダを使用して、全機能を利用できます。
- SSIS 2005 では、SSIS の一部の機能 (非 SQL Server ソースからのデータ抽出) はほとんどの SSIS ユーザーの要望を満たしているように、ADO.NET 2.0 ベースのデータ接続で実現できます。

推奨 Progress DataDirect 製品

SSIS 2005

1. DataDirect Connect for ADO.NET

SQL Server 以外のソースからのデータ抽出を完全サポートする SSIS 2005 の部分的なサポート。

2. DataDirect SequeLink

DataDirect Connect for ADO.NET 接続がニーズを満たさない場合、SequeLink クライアント for ODBC を Microsoft ODBC .NET データプロバイダ (32 ビットと 64 ビットの両方) と共に使用することが出来ます。

3. DataDirect OpenAccess SDK

DataDirect OpenAccess SDK がニーズを満たさない場合、OpenAccess クライアント for ODBC を Microsoft ODBC .NET データプロバイダ (32 ビットと 64 ビットの両方) と共に使用することが出来ます。

4. DataDirect Connect for ODBC

Connect for ADO.NET がニーズを満たさない場合、DataDirect Connect for ODBC ドライバを Microsoft ODBC .NET データプロバイダ (32 ビットと 64 ビットの両方) と共に使用することが出来ます。

SQL Server レポートティング サービス (SSRS)

SSRS は、マイクロソフトの BI アプリケーション用レポートデザインおよび公開ツールです。詳細は、MSDN の SQL Server Reporting Services を参照してください。

データアクセスオプション

SSRS は ADO.NET 2.0 ベースのみです。
Microsoft ODBC .NET データプロバイダと OLE DB .NET データプロバイダを使用して他のデータソースにアクセスすることは可能ですが、これらのブリッジは、使用可能なデータソースリストに表示される前に、いくらか手動で設定する必要があります。

推奨 Progress DataDirect 製品

1. DataDirect Connect for ADO.NET

SSRS の全機能をサポート。

2. DataDirect Connect for ODBC

DataDirect Connect for ADO.NET 接続がニーズを満たしていない場合は、DataDirect ODBC ドライバを Microsoft ODBC .NET データプロバイダ（32 ビットと 64 ビットの両方）と共に使用することが出来ます。

3. DataDirect SequeLink

DataDirect Connect for ADO.NET あるいは DataDirect Connect for ODBC 接続がニーズを満たしていない場合は、Microsoft ODBC .NET データプロバイダ(32 ビットと 64 ビットの両方)と共に SequeLink client for ODBC と共に使用することが出来ます。

4. DataDirect SequeLink

DataDirect Connect for ADO. NET または DataDirect Connect for ODBC 接続がニーズを満たしていない場合は、OpenAccess client for ODBC with the Microsoft ODBC .NET Data Provider(32 ビットと 64 ビットの両方)と共に使用することが出来ます。

SQL Server 2005 エディションの差異

以下は、様々な SQL Server 2005 エディションの内部データ接続要件に関する相違点の要約です。

詳細については、MSDN の SQL Server 2005 インストールのハードウェアおよびソフトウェア要件と、Microsoft の Web サイトの SQL Server 2005 の機能比較を参照してください。

SQL Server エンタープライズエディション

- ・ 完全な SQL Server
全機能と SQL Server リンクサーバコンポーネント、Business Intelligence スイートをサポート。
- ・ サポートされている真の 64 ビット機能をサポート
- ・ Windows Server プラットフォームのみサポート

SQL Server デベロッパーエディション

- ・ エンタープライズエディションと同等の機能
- ・ サーバーだけでなく、大部分の Windows OS バージョンをサポート
- ・ 開発及びテスト用途に限り利用可能

SQL Server スタンダードエディション

- ・ 真の 64 ビット機能をサポート
- ・ Windows Vista Ultimate, Business and Enterprise 64-bit x64 版をサポート
- ・ 限定 SSIS サポート
データマイニングやデータクレンジング等の高度な変換はありません。

SQL Server ワークグループエディション

- ・ SSIS 限定サポート
Import/Export 機能のみ

SQL Server エクスプレスエディション

- ・ SSIS 非サポート

SQL Server 2008 エディションの差異

以下は、様々な SQL Server 2008 エディションの内部データ接続要件に関する、相違点をまとめたものです。

SQL Server エンタープライズエディション

- ・ 完全な SQL Server
SQL Server リンクサーバーおよび Business Intelligence スイートのすべての機能とコンポーネントをサポート。
- ・ 真の 64 ビット機能をサポート
- ・ Windows Server プラットフォームのみサポート

SQL Server デベロッパーエディション

- ・ エンタープライズエディションと同等の機能
- ・ サーバーだけでなく、大部分の Windows OS バージョンをサポート
- ・ 開発及びテスト用途に限り利用可能

SQL Server スタンダードエディション

- ・ 真の 64 ビット機能をサポート
- ・ Windows Vista Ultimate, Business and Enterprise 64-bit x64 版をサポート
- ・ 限定 SSIS サポート
データマイニングやデータクレンジング等の高度な変換はありません。

SQL Server ワークグループエディション

- ・ SSIS 限定サポート
Import/Export 機能のみ。

SQL Server エクスプレスエディション

- ・ SSIS 非サポート

(米国Progress社Web掲載のホワイトペーパーの日本語抄訳です。) Progress、DataDirectは、商標、もしくはProgress Software Corporationまたは、アメリカや他国のProgress Software Corporation関連会社や支社の登録商標です。本文書の他の標識は、所有者の異なる商標である可能性があります。仕様は予告なく変更されることがあります。

© 2017 Progress Software Corporation. 著作権はProgress Software Corporationに帰属します。

All rights reserved. 無断複写・転載を禁じます。